

鳥大が認知症寄付講座

小林製薬と医学部に開設

鳥取大と小林製薬(大阪市)は、医学部(米子市)に寄付講座「認知症予防学講座」を開設し、協定を結んだ。認知症の専門的な知識を持った人材の育成や、認知症を予防するためのプログラムの普及啓発などを目指す。

講座の開設は4月1日から3年間。医学部の浦上克

哉教授(日本認知症予防学会理事)ら2人が教員となり、保健学科の学生や大学院生、研修医らを対象に講義や実習を行う。小林製薬は経費6000万円を寄

付する。小林製薬は、香りをかぐことで認知機能の状態を判定するキットや、記憶力や注意力などを維持する機能性表示食品を開発している。

22日には鳥取大病院で調印式があり、鳥取大の中島広光学長が「全国の高齢者が認知症の不安を抱えながら生活しており、認知症の早期発見や予防は重要な問題」とあいさつ。小林製薬の小林章浩社長は「認知症は長期にわたって家庭内で介護が発生する」と指摘し、講座で予防の認識が広がることに期待を込めた。